

建設事業における高度情報化

— パネルディスカッションのスタンス —

パネルリーダー：茨城大学工学部 岩松 幸雄

1、テーマの用語の定義、構成または範囲について

1.1 「建設事業」の対象範囲

市民の生活及び生産のための基盤施設整備にかかわる全行為。つまり、調査、試験、計画、設計、積算、施工、管理運営等の行為にかかわる実行為はもちろん、それを支援する調査、研究、教育、営業、事務処理等々の行為の総体を対象とする。

1.2 「情報社会」または「情報化社会」

① 定義…情報の価値の生産と利用が中心となっていく社会

② 現時点での情報社会の発展段階は？

工業社会までの人類社会の発展過程は まず中核となる革新技術が出現し、これにいくつかの新技术が組み合わさって、より高次の総合技術が形成されるといった形で行なわれているといわれる。

そしてその総合技術が人類社会に広く普及・定着し、社会の仕組みを変えるまでには次の3段階が設定できる。

- 第1段階……新しい社会的技術が、それまでの人間労働にとって変わる段階……………（省力化指向）
- 第2段階……新しい社会的技術が、それまでの人間労働でできなかったことを可能にする段階……………（問題解決指向）
- 第3段階……それまでの伝統的な社会の仕組みが新しい仕組みに根本的に変革する段階。

そこで、現在は第1段階から第2段階へ移行し、第3段階も どこかで試行されているという段階であろう。

③ 「高度情報化」とは

巷間、言われ、また指向している高度情報化社会とは先述の第2段階の問題解決型指向社会のように見える。

つまり、コンピュータという革新技術が出現し、これに通信系の新技术が組み合わさって、より高次の情報技術という総合技術が形成され、それまで

に想像はし得ても現実に不可能と思われていたことが 実現可能になったという段階を高度情報化社会といい、そういう社会を支援する人、物、システム等の整備状況を高度情報化というのだろう。

したがって、現在は情報社会の第3段階の価値観を含む社会の仕組みの変革が完成しているとは言い難く、工業社会の1物1価の価値観が通念としてあることになる。

2、Panel discussion の指向対象

① 省力化型より問題解決型を

② Information ではなく Data を

③ 取り扱い対象は data に関する全段階を

- data gathering (automatic gathering)
- data storage (data base system)
- data processing (expert system)
- data presentation (computer graphics)

④ Data、Soft、Hard 等の共用性

- data 及び soft の compafibility
- hard の inter-operability

3、Panel discussion の進行手順

3.1 建設産業における高度情報化の現状と問題点 (= sein)

①他産業との比較、②情報化という視点から事業実施面での問題点、矛盾点等々について、技術、社会、組織等々の側面から討論する。

3.2 建設事業における望ましい情報化の姿 (= sollen)

各職種別に技術、社会、組織、人等々の面からこれからの” あらまほしき姿” について発表討論する。